

新拠点ゾーン整備基本計画(案)に係るパブリックコメントの実施にあたって

1. 検討の背景

松戸駅周辺の都市機能も更新時期を迎えており、相模台の新拠点ゾーンは松戸駅周辺の都市再生を先導する役割を担うエリアとして、国有財産の有効活用が求められています。一方、本市の現市庁舎は耐震性の不足などにより、防災拠点としての機能が果たせないことが危惧されており、豪雨災害が頻発し首都直下地震の危険性も高まるなか、大規模災害への備えとして、新たな防災拠点の構築が急務となっています。

2. これまでの取り組み

上記背景を踏まえ、松戸駅周辺のまちづくりを、松戸市全域を視野に入れつつ、未来を見据えた多角的な視点から幅広く検討すべく、市民と若手職員の協働による「MATSUDOING 2050」のワークショップを開催し、松戸駅周辺地域の様々なエリアごとの魅力や役割や可能性について、参加者の方々と認識を共有しました。

その中で新拠点ゾーンについては、駅近傍には珍しく広大かつ緑豊かなオープンスペースが残り、地盤がよく高台であるといったポテンシャルを活かしながら、新たな暮らし（Work/Life）や災害対応の拠点としての役割を担うべきことが見えてきました。

3. 新型コロナウイルス感染拡大による影響

一方、新型コロナウイルスの感染拡大により、これからの社会やまちのあり方について、これまでとは大きく考え方を変えていく必要が生じました。新拠点ゾーンの整備についても、これまでの議論を尊重しつつ、ウィズ／アフター・コロナを見据え、新しい社会の中で選ばれるまちづくりをしていく必要があります。

4. 今後の取り組みについて

ウィズ／アフター・コロナ時代の新しい生活様式を実現するためには、都市のあり方も変化が求められています。テレワークなどの新たな働き方とゆとりある暮らしを実現していくには、本市のような都心から20km圏内の大都市近郊都市の抜本的な改革が非常に重要です。

ウィズ／アフター・コロナの社会において、本市が、市民の方々が快適に暮らせる、より「魅力あるまち」になるには、「MATSUDOING 2050」で実施したように、行政と市民との協働によるまちづくりを実践していくことが必要と考えています。

以上の1～4を踏まえ、新拠点ゾーン整備基本計画（案）を作成いたしました。